

第4回射水市学校部活動在り方検討会 議事録

1 会議

期 日：令和4年12月15日（木） 15：30～17：05

場 所：射水市役所会議室401

出席者：

（委員） 金谷会長（教育長）、丹羽副会長、加藤委員、川田委員、
金委員、三角委員、朝倉委員、川腰委員、古城委員

（事務局） 久々江教育委員会事務局長

塩谷次長（生涯学習・スポーツ課長）

六渡次長

星野課長（学校教育課）

寺島所長（教育センター）

北村班長（生涯学習・スポーツ課スポーツ施設整備班）

安元課長補佐、小谷内副主幹、道上主任（学校教育課）

鳥本課長補佐、荒木主査（生涯学習・スポーツ課）

谷口専務理事、今泉事務局長、小田事務局員

（（公財）射水市体育協会）

2 概要

・開会のあいさつ（金谷教育長）

・議事進行（金谷教育長）

・報告事項

（1）令和4年度実施モデル3競技の活動状況について

（2）モデル3競技の中間報告

【委員からの意見等】

（委員）

剣道で週末、学校から用具を運搬し、週初めに学校へ戻すことが大変だと聞いた。吹奏楽部などでも同様の問題があると思うので、検討が必要である。

（委員）

剣道は新湊地区が3校合同で活動しており、これを解決できれば、剣道はうまくいくと思うが、答えがなかなか出ない問題である。

（委員）

物置を準備するなど、多少の経費がかかっても必要なものをそろえていく必要がある。固定観念に縛られると考えが浮かばないので、前に進めない。

（事務局）

地域部活動の連絡が活動日の前日ぎりぎりや、学校からの配布物で確認するなど、ばらばらで課題がある。

(委員)

自治会では、結ネットで見覧板をしており、地域部活動で活用できないか。

(委員)

LINEを使用している保護者が多く、活用できないか。

(事務局)

活動母体が50人以上であり、何らかの窓口が必要と考えている。

(教育長)

指導者マニュアルにはどのように記載しているのか。

(事務局)

規定はなく、指導者が個人情報に留意し、連絡していただくことになっている。アプリ導入の予定は現時点ではない。

(委員)

連絡の実態はどのようになっているのか。

(事務局)

当日活動に参加する友人などを通じて、欠席の連絡を受けている。

(委員)

ブロックごとに電話連絡網を作成するなど、工夫すればどうか。

(委員)

電話連絡網は学校から配付されておらず、学校発信のメールの活用はできないか。

(委員)

学校のメールを活用して、指導者から送信することはできないのか。

(事務局)

学校内だけのデータに外部の情報が入ることに課題がある。

(委員)

1会場あたり2人分の謝金では不足している。地域にお願いしてできないことは学校も協力する必要があるが、予算をかけるところはかけないと前に進まない。責任の所在があいまいだと保護者は不安になる。

(教育長)

モデル競技実施前は、主に情報を受けることを想定していたが、情報を発信する方法についてもご提案いただいたシステムの活用など検討していく。

(委員)

LINEはスポーツ少年団で連絡用として活用している。地区ごとにグループをつくり対応することができるのではないかと思う。

(教育長)

中体連から大会出場について通知があったが、何か課題はあるか。

(事務局)

地域のスポーツクラブなど令和5年度から中体連の大会に出場できるとの報道があった。これを受けて県の中体連から詳細な通知が来ており、1年間の活動実績がないと大会に出場できないといった細かな規定があり課題が多い。

(事務局)

当初の想定では、地域部活動では技術力の向上を図り、学校部活動ではチームプレイに重きを置いた活動と考えていたが、令和5年度は学校単位での大会出場が望ましいのかもしれない。この場合、指導者を各学校へ派遣することも考えていく必要がある。

(委員)

サッカーのクラブチーム加入者は中体連の大会に出場できないことになっていたが、現状も変更はないのか。

(事務局)

変更はない。

(教育長)

サッカーはこれまでも大会出場について区分されており、分かりやすいが、バスケットボールは複雑な面がある。令和6年度以降、どのようになるかも不明である。本市では来年度にはモデル競技を増やすこととしているが、さらに課題が出てくる可能性もある。勝利を目指す子やスポーツを楽しみたい子など、生徒への選択肢が増えたことで意思表示がはっきりしてくる面もあり、難しい課題である。

(事務局)

地域移行の意義は1つ目に教育の働き方改革、2つ目に少子化により中学校単位で大会出場ができなくなった場合の受け皿という面がある。他県の事例では、各中学校に地域の指導者を派遣し、大会出場ができない中学校では合併しながら活動している。しかし現状の本市では、競技団体から指導者を派遣できる状態でない。状況を見ながら進めていく必要があると考えている。

(委員)

土日に教員は、部活動に原則従事しない一方で、大会出場だけ教員が指導することはできない。予算がかかるが、平日に指導している方が休日も指導することがよいのではないか。

(事務局)

指導者を平日も派遣できる競技団体がいるのだろうか。現状のモデル競技でも派遣していただくことが難しいと感じている。事務局内でもこれまで議論を重ねているが、結論がでない難しい課題である。新年度の取組に向け、

ご提案をいただければと思う。

(教育長)

競技団体の皆さんと話し合いながら進めていくが、学校へもお願いすることもあるだろうと感じている。

(委員)

市地域振興会連合会として県や市に要望しているが、部活動の地域移行に指導者謝金の予算確保は避けては通れないし、現在の1会場2名分では不足と思うが、見解を伺いたい。また、少子化が進んでおり、今後中学校の統合などで部活動もなくなる競技があると思うがどのように考えているか。あわせて、高校では地域移行が難しいと聞いているが、どのように捉えているか伺いたい。

(事務局)

現在のモデル競技に係る費用は市で負担しており、次年度も2人分の謝金を確保したいと想定している。ご提案のあったことについては、モデル競技の実績も見ながら修正を検討したい。また、保護者負担については将来的な課題である。いずれにせよ、地域移行に向けた見極めのためにモデル事業を実施していることをご理解願いたい。

(事務局)

部活動の統合の手法とすれば、先に申したような人数が少なくなった中学校が統合先を探すパターンや民間クラブ、総合型地域スポーツクラブなどに受け皿になっていただくよう協議していく必要がある。

(事務局)

補足になるが、予算については行き過ぎた指導を防止するなど、安全な活動にするため、最低2人の指導者を置くことにしたもので、実情にあっていない分については見直しを検討する。地域振興会からの要望については、大変心強く、感謝している。現在のモデル競技の実施に当たっては、国を通じて県から補助金があるが、次年度以降も継続される確証はないことから市としても国に対して財政措置の要望をしている。また、県では指導者バンクなどの支援や企業の参加なども検討されており、このような拡がりに対して期待と課題を感じている。高校の部活動地域移行については、甲子園を目指せる高校という生徒の選択もあるだろう。また、高校によっては、教員は顧問、監督は地域の専門的な指導者というケースもあり、地域移行のハードルは高いと判断されたものと捉えている。

(委員)

モデル競技の実施前に、保護者と指導者の顔合わせがあればよかったかもしれない。そうすれば、アンケートにあった保護者の不安などが少なくなったかもしれない。次回に生かしていただきたい。

(3) 令和5年度実施モデル競技・活動等について

【委員からの意見等】

(教育長)

あくまでも現時点で、令和5年度にモデル競技として実施できる可能性はあるか各競技団体に意向を確認した上で作成した資料である。これから具体的に次年度の実施に向けて協議を進めていくものとなる。

(事務局)

小学6年生に対して、中学校入学説明会の機会に次年度のモデル競技を示していきたいと考えており、校長会と協議していきたい。

・その他

今後のスケジュールや次回の会議予定等について説明